

秋田大学創立70周年記念事業「学生懸賞論文」審査委員会講評

審査委員会委員長

秋田大学長 山本 文雄

秋田大学は創立70周年というマイルストーンに到達し、これまでの活動を振り返り、これからの秋田大学の在り方を、この1年かけて検討しております。学長就任以来、「学生第一」「さらなるステイタスアップ」といったスローガンを掲げ、よりよい大学経営を目指してきました。そして、近未来の「Society 5.0」の到来を見据え、それに対応していかななくてはならない学生さんたちが、今現在の状況からどのように未来を展望し、適応していくべきかを考えることは、大きな意義があるものと感じ、「未来への提言—20年後の社会と秋田大学の将来像—」をテーマに、学生懸賞論文を募ることとしました。20年後の社会を予測しながら、その未来に向けて秋田大学はどのように自らを改革していくべきなのか、どのような未来を模索すべきであるのかを論題に掲げて、学生さんたちの目線からの提言を募集した次第であります。応募論文数は、3編であり、応募者は医学部医学科の4年次の学生が1名、教育文化学部地域文化学科の3年次の学生2名の計3名でありました。皆さん、与えられたテーマについてよく勉強し、自分の考えをしっかりと持って論文としてまとめ上げられていました。日頃、学修等、多忙な毎日を過ごしているにもかかわらず、このような時間のかかる知的活動にも挑戦してくれたことに、心から敬意を表します。大学での学修においては、高校までの勉強と異なり、自ら「問い」を見出し、それに自分なりの「回答」を与えることが重要です。論文を執筆するということは、そうした大学での学修の本質に関わり、将来的にも必要なことであり、特に論文作成能力は、在学中に身につけなければならない必須なものであります。今回、学生懸賞論文に挑戦してくれた皆さんが、今後も、社会に目を向け、アカデミックな面から大きな成長を続けてくれることに期待しております。